

75 75期リレーエッセイ

この1年間を振り返って思うこと

会員 佐々木 久郎



1 自己紹介

私は、一般的な弁護士の型から少々外れておりまして、75期の最高齢で現在71歳です。元々は、日立製作所や株式会社リコーなどにて、当初はソフトウェアや論理LSIなどの開発技術者、その後は米国のビジネススクールへ行くなどしてキャリア転換し、経営企画やM&Aなどに携わっておりました。その間、米国などの法律事務所とかかわる機会もあって、弁護士に興味を持つようになりました。そこで、65歳で会社を引退した際に、次は法科大学院へ行こうと考え、66歳から3年間を法科大学院（未修）で過ごし、その後の1年間を修習で過ごしまして、70歳で弁護士としての第一歩を踏み出すに至りました。

2 この1年間を振り返って

令和4年12月に弁護士登録をして、令和5年1月から弁護士業務を始めました。所属事務所は海外系の企業法務に強いブティック的なところなので、その方面の案件が多いのですが、私は、「何でもできる弁護士」を目指そうと考え、意識的に一般民事なども担当させてもらいました。海外系の企業法務は、立場は違っても、内容的には会社員時代の経験に助けられる部分が多く、概ね想定範囲内でありました。他方、一般民事や新規登録研修で担当した国選事件は、自分の頭の中のこれまで使ったことがない部分を刺激される感覚で、大変興味深い経験となりました。

また、縁あって弁護士会の会派に参加させて頂いておりますが、おかげさまで様々なお立場・ご専門の方々とお話をさせていただく機会を頂戴しております。そのような中で感じますのは、実に素晴らしい方々ばかりだという驚きです。長年企業社会で暮らしてきて多くの

人と出会ってまいりました。もちろん、その中には素晴らしい方が大変多くおられるのですが、この1年間でお目にかかることができました弁護士の方々には、言わば異次元の素晴らしさをお持ちであると感じております。

人間、年を取ると1年が速くなるとよく言われます。しかし、私の場合は、66歳で法科大学院に入学してから、一書生に戻って新しいことを始めたことによるのかもしれません。ここ数年間は時間の経つのが遅いと感じられます。特に、実際に弁護士業務を始めてからの1年間は、企業法務以外の分野では、会社員時代のように手持ちの引き出しから次の一手をひょいと取り出すという技が使えず、何からなにまでゼロから考えるという毎日で、時間の経つのがとても遅く感じられる毎日です。もっとも、弁護士業は様々な意味でやりがいも楽しみもあると思っておりますので、時間の経つのが遅いことは、私にとってはありがたいことでもあります。

3 新人弁護士として目指すもの

まず、依頼者様の期待を超えるパフォーマンスを出せるよう、知力と体力の維持増進を重点課題として進みたいと思います。特に体力の維持増進は、年齢からして最重要でありまして、早寝早起きとか体幹を鍛える自己流の運動などに勤しんでいます。次に、「何でもできる弁護士」と上に書きましたが、何でもできるが何もできないと言われることが無いように、自分の強みとなる分野を3つ程度はしっかりと深掘りして行きたいと考えています。弁護士業も1年経ちましたので、そろそろ深掘りしていく分野に当たりを付けていきたいと思っております。